



感染症に気をつけよう



1 全数報告感染症(感染症法 1~5 類感染症) 5月の報告

腸管出血性大腸菌感染症の報告が3件ありました。例年夏に流行するので注意が必要です。生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒、焼肉の生肉を取るはしと食べるはしの区別などの予防対策が重要です。また、加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。家族内の感染者からうつることがあるため、十分な手洗いも心がけましょう。◆啓発用チラシ「0157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

その他、アメーバ赤痢の報告が3件、A型肝炎、レジオネラ症の報告が2件、コレラ、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)の報告が1件ずつありました。

2 定点報告感染症(感染症法 5 類感染症)

平成 24 年 4 月 23 日~5 月 27 日

疾患名	市内流行状況	コメント
<u>咽頭結膜熱</u> (プール熱)	▲ →	まだ落ち着いていますが、例年夏に流行するので、今後の注意が必要です。乳幼児や高齢者で症状が重くなることがあります。予防にはうがい・手洗いが大事です。また、プールでの感染防止のために、前後でシャワーをよく浴びましょう。
<u>感染性胃腸炎</u>	▲ →	例年に比べて報告数が多い状態が続いています。集団発生の報告もあり、引き続き注意が必要です。

★大流行 ◎流行 ●やや流行 ▲散発 ×市内発生なし
 ↗増加 ↘やや増加 →横ばい ↘やや減少 ↓減少

3 今、気をつけたい感染症

風しん：現在、兵庫県や大阪府などで流行しており、厚生労働省が注意を呼びかけています。横浜市では今のところ明らかな流行はありませんが、今後の流行情報に注意が必要です。風しんは風しんウイルスによっておこり、主な症状は発疹、発熱、リンパ節のはれです。小児の場合、通常あまり重くない病気ですが、妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると胎児に感染し、難聴、心疾患、白内障、精神運動発達遅滞などをもった、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

風しんの治療法は特別なものが無く、対症療法が中心なので、予防のためにはワクチンをしっかり受けることが重要です。ただ、妊娠中の女性あるいは、2ヶ月以内に妊娠する女性は、ワクチンが先天性風しん症候群を起こす可能性が指摘されているので、風しんの予防接種を受けてはいけません。

「感染症に気をつけよう6月号」は、平成24年5月31日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、[委員会報告](#)をご覧ください。

市内の感染症に関する詳しい情報は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用の[パンフレット](#)も作成していますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

